

BBS会会長賞

堺市立 大仙小学校 六年

児 島 諒

まずは、「おはよう」からはじめよう。

僕は、約九十世帯の暮らすマンションに住んでいます。

僕の同級生も暮らしていますが、おじいさんやおばあさんもたくさん暮らしています。

僕は、朝出かける時、午後帰った時など、同じマンションで暮らす人やマンションの管理人さんに

「おはようございます。」

「ただいま。」

「行ってきます。」

と進んで挨拶をします。

そうすると、多くの場合、

「おはよう。」

「行ってらっしゃい。」

「お帰り。」

と、当たり前のように気持ちよく返してくれます。

僕があまり覚えてなくても、久しぶりに見かけられた人から、

「大きくなったね。何年生？」

と聞かれたり、

「サッカー暑いので気をつけてね。」

と優しい言葉をかけてもらうことがあります。

だけど、「おはようございます。」と声をかけてもスルーされることもあります。

自分と相手が、人とつながっていること、つながっていないことを感じるのが、毎日起こっています。

ではなぜ、多くの大人が子どもたちに挨拶することが大切というのでしょうか。改めて調べることにしました。

挨拶には、①相手に敵意がないことを表す、②相手を尊重する気持ちを表す、③同じ集団にいることを確認する意味があるようです。

挨拶することで、お互いが同じ集団の中にいて、安心感を共有し、気遣いのある関係をつくる、単なる形式的なことではなく、信頼や安心、相手への敬意を示す大事な行いということが分かりました。

いきなり知らない人と「おはようございます。」と言うより、学校や家族などのしゃべりやすい人からどんな話してみてもはどうでしょう。

逆にあいさつをしないと、どのようなことが起きるのでしょうか二つに分けて説明します。

一つ目は、人前で立って自分の意見を言えるか言えないかです。まず、僕はふだんから、授業を受けている中で、できるだけ前へ出て、わかりやすく説明できるように努力しています。

さらに、伝わるように、はっきりと分かりやすい声でしゃべることを意識しています。それは、どのような人に対しても、仲のよい人とのかべをつくらず、「おはようございます。」としやべりかけてはいかがでしょうか。

二つ目は、災害での避難活動でこまることです。いつも近所の人と顔をあわせておくと、一人の時でも、だれかが分かるから、不安がなくなり、助けを求められるのではないかと考えます。

ここから、毎日のあいさつは、いつかまた役に立つ日がくるでしょう。

挨拶について調べて、僕は確信しました。

信頼や安心感は、すぐにはつくれないものだから、きっと毎日毎日の積み重ねがすごく大事なのです。

いつ起こるか分からない地震などの自然災害を想像しても、み

んなで助かり、生きぬくには、このつながりが大事だと思います。挨拶は、起きた瞬間から始まる未来につながるコミュニケーション。まずは、「おはよう。」からはじめよう！

